して見ますれば、又大なる差異あるのであります。故に殖民地の經營は、其の本國と殖民地との關係や、當時の事情で決定せられ變更せらるゝので、むづかしい事で、他國が斯くの如く行つて居るから、我國も之を執つて行はなければならぬといふやうな單純なる結論は出來ぬのであります。但し細目の施設に至りましては、所謂他山の石で、各國のやり口を比較研究して、以て我が施設の參考に供することは、非常に有益の事と思はれます。甚だ長時間御清聽を煩はしまして、恐縮に存じます。

シヤイエ氏印度教育問題に就て

四十三年十一月起草

(Joseph Chailley's Administrative problems of British India.)

著書の由來

原著者ジョセフ、シャイエ氏は佛國殖民學派に屬する有名の著述家にして千九百六年以來バンデー縣選出の代議院議員たり、氏は夙は英國殖民地政治の研鑽に從事し千八百九十二年英領香港及緬甸の行政を論述したる一書を著はせり、題して印度支那殖民論と云ふ、此書英譯あり、廣く本邦讀書界に歡迎せらる、氏は英國の印度統治に付て多年潛心討究する所あり、千九百年乃至一年及千九百四年乃至五年の兩度親しく印度に遊び實地に就て其行政を視察し遂に昨年を以て英領印度なる著作を印行せり、氏曰く予の此著述たるや二十年以來の著想十年以來の研鑽の結果なりと、見るべし、其著作の徒爾に出でたるものに非ざることを、譯者サー、ウキリヤム、マイヤーは現に印度總督立法評議員の一人にして印度政府の大藏大臣を兼ぬ、シャイエ氏の再度の印度視察の時に方りて氏偶〻インペリヤル、ガゼッター

(印度帝國叢書)の編纂總裁たりしかば、シャイエ氏に資料供給の任務に當り、爾來友誼を結び、シャイエ氏の著作あるや、氏は印度總督ミント卿及印度事務大臣モーレー卿に乞ふ所あり、其承認を得て英譯印度行政問題を出版するに至れり、此書シャイエ氏の著作と云ふと雖、其の事實の記述に至りてはマイヤーの助言に依りて改刪修補したる所尠からず、唯其の事實に對する議論に至りては全く原著者シャイエ氏の意見にして、譯者が印度官吏たる立場よりすれば首肯し得ざるもの多々ありと雖、毫も自己の意見を挿まずして忠實に原著者の主意を飜譯したるものなることは、兩氏の共に公言する所なり。

從來英書にして印度政治を記述したるもの、其官僚の手に成れるものは動もすれば印度政治を曲庇强辯するの傾あると共に、其反對者の手に成れるものは徹頭徹尾之を非難攻擊するの嫌あり。兩者極端に走りて共に未だ正鵠を得たりと謂ふ事を得ず。此書の價値は其の事實の正確なるに至りては印度の責任ある官吏の保證する所にして、而かも其議論に至りては局外者の自由意見なるの點に存す。其の土人政策を論ずる所の如き、縱横に印度政治の長短得失を評隲して直截明快復餘蘊なし、予は此書を以て英國の印度統治を論じたる近來の快文字なりと爲すに躊躇せざるなり。

著者の教育問題を述ぶるに方りては議論頗ぶる模稜晦澁、往々讀者をして教育上の重要問題に關して著者の意見の果して何れに在る乎を知るに苦ましむ、然れども其の印度教育の沿革を敍し、其の缺陷を指摘するに至りては、言々肯綮に當り、要領を得たるものなることを否む能はざるなり。

印度近時の政治的擾亂を教育との關係

印度教育には幾多の缺陷あり、遂に世人をして近時の政治的擾亂は其原因教育施設其方を誤りたるに基因すと斷定せしむるに至れり。疑もなく誤れる教育施設が近時の政治的擾亂の一原因を爲せるには相違なし、然れども印度の政治的擾亂なるものは其根蔕や深く且遠し、其眞因を尋ぬれば英國の印度政治の一般方策に胚胎するものにして、百五十餘年來英國の印度統治の自然の結果なりと謂ふを憚からざるなり。英國の印度統治の缺點は其統治力の微弱なるに在り。蓋を以て經とし詐謀を以て緯とするは是れ印度統治の傳來の政策なり。是れ亦無理

ならず、一掬手の如き少數の本國人を以てして海岳數千里を隔てたる百七十萬方里三億萬人の大陸を駕馭せんと欲す、武力の恃むべきものあるにあらず、恩澤の人民に感孚せしむるものあるにあらず、是を以て詐謀權略籠蓋操縱を以て唯一の傳來政策と爲したるもの亦固より已むを得ざる所にして、寧ろ史家シーレー氏の謂へりし如く、英國の印度統治は世界史上の奇蹟にして、英國人にして初めて克く此偉業を成し且保つを得るものなる事を疑はず。曾て印度の佛領守將たりしダユーブレーは印度統治の大策を立てゝ曰く、一、土人兵を訓練して治平を維持する事二、西洋科學の效力を應用する事三、土人の人種宗教等の差異よりして相互間に利害感情の相一致せざるを利用して巧みて之を操縱して利權の扶殖を圖る事是なりと、惜い哉、當時佛本國の政策其宜を得ざりしよりして、此烱眼なる英雄も遂に英將クライブの爲に亡ぼされ、印度に於ける佛國の勢力殆んど地を拂ふに至れり。然れどもダユブレーの打立てたる政策は爾來英國人の踏襲する所にして、英國人は之に依りて土人兵を養成して其攻略の爪牙に充てたりき、之に依りて漸次土人王國を亡ぼして其領土を擴張したりき、千八百五十七年土兵一揆の起りし以前に

在りては土人兵二十一萬五千人に對して歐洲兵僅かに三萬九千人に過ぎざりしなり、千八百五十七年の土兵一揆は全印度をして土崩瓦解に歸せしめ、英國は殆んど其印度統治を失はんとし、一ヶ年の日子を經て辛じて之を鎮定する事を得たり。爾來英國の印度に對する態度一變し、一面に於ては歐洲兵の土人兵に對する步合は三分の一を標準として此標準以下に下ることなからしめ、(千九百二年には土人兵十四萬七千人に對して歐洲兵七萬六千人あり)且砲兵の如きは全然歐洲兵を以て組織する事と爲し、又道路を造り鐵道を布き以て其防備を固ふし、一面に於ては會社の統治權を收めて之を國家に歸し、女皇の崇嚴なる詔勅は土人王國に約するに本領安堵を以てし、又凡そ女皇陛下の臣民たる者は其の人種、宗教の如何を問はず、苟も其教育才幹及性格にして資格を有する以上は自由に且公平に帝國政府の官吏たる事を許容せらるべき旨を宣言せられたりき。而も斯の如き約束は未だ嘗て履行せられざるなり、而して印度の利源は益〻之れを吸收して英國に輸し、曾て世界に於て最富めりと稱せられたる印度は今や世界第一等の貧國と爲れり、(印度には從來誇るに足るべき工藝品ありしも英國は印度の工藝品には重き關稅を課

して英國への輸入を防ぎ、而してマンチエスターの織物に對しては自由に亡かも奬勵を與へて印度へ輸出せしめたりしかば、印度の工藝品は全く撲滅せられて印度は單に原料品を供給すべき農國と爲れり、又印度の國債の中には曾て英國が亞富斯坦や蘇丹にて戰爭したりし軍費をも組入れて之を印度人民の負擔に歸せしめたり、ダット氏英領印度經濟史)されば已むを得ざる必要よりして英國人が施設したる教育制度の結果は土人の智識を高め見聞を廣ふせしめ、智識を高め見聞を廣ふしたる土人等は英國人の經濟及財政々策の爲に印度が貧困の窮境に陷いり、而して政治上の理由に基きたる約束が更に履行せられざるを見て、最早籠蓋に甘んじ詐謀に致されて沈默すること能はず、近時の所謂政治的擾亂なるものは實に斯の如き政治上及經濟上の理由よりして發生したるものなりとす。其近因に至りては日本の勃興の刺激もあらん、カーゾン卿の强毅なる政策が反動を誘致したりし事情もあらん、然れども其眞因に至りては英國の印度統治政策に胚胎せる自然の結果なりと謂はざるを得ざるなり。

然らば則ち英國の印度統治は其基礎既に破壞せれたる乎、印度人の獨立自治は果して可能の事なる乎、曰く否、英國の印度統治は其基礎尙鞏固なるものあり、有史以來印度を統治したるもの誰れか克く英國程治平を保ち公正を持し人民に物質的幸福を與へたるものある乎、況んや幾多の人種宗教言語習俗を包容したる雜駁なる印度が其國民統一を完成し得ん事は到底得て望むべからざる事に屬す、英人は善く此機密を知れり、歩一歩政治上の自由を讓歩して土人の感情を和ぐるに務め、而して一方には土人間の人種宗教等の差異に基ける感情の不一致を利用する傳來政策を踏襲せり。(印度教徒と回々教徒とを相離反せしむるが如し)予は確信す、英國の印度統治は近き將來に於て單に其內部の勢力よりして決して破壞せらるゝものにあらず、其の破壞せらるゝは外部勢力の壓迫が內部勢力と相聯絡結合したる時に在ることを。其外部勢力は果して露乎將た獨乎、前途茫漠、誰れか克く得て豫言せんや。

印度教育の缺點

予は印度の教育制度は英國人が已むを得ざる必要よりして施設したるものなりと言へり、何を以て然かく言ふ乎、元來實利の觀念に富み常識の判斷に敏き英國

人が單に土人に文明の恩澤を與へんとする高明の思想よりして自己の利益を沮害する結果を生ずべき土人教育問題に熱心なるが如きは思も寄らぬ事なり、東洋印度會社が印度に政治的勢力を樹立して以來六七十年を經過したる千八百十三年に、其重役會議は決議して爾來印度の文學、教育の奬勵の爲めに年々拾萬留比を支出すべき旨を宣言したりき、當時印度の收入が一ヶ年無慮貳億留比以上なりしに比して如何に少額なる教育費の支出ぞや、(印度の一ヶ年收入千八百四十年に貳億千萬留比千九百一年に拾壹億參千萬留比なり)見るべし、印度當局者が土人教育に對して最初より冷淡なりし事を。予は曾て埃及に遊び、在職二十五年の努力を以てして國際關係の紛糾せる、財政の殆んど破産に瀕せる、諸般行政の紊亂せる埃及を治め、遂に其財政を健全にし諸般行政を整理し以て埃及に於ける英國の勢力を確立し、其退職に方りては議會は類例なき全會一致を以て感謝の意を表し、五萬磅の金額を贈貽したりしクロムマー卿の治績を親しく見聞したる事ありき。其の大に水利を興し産業を奬め土人の物質的幸福を增進するに於て盡さゞる所なきに拘はらず、土人教育に至りては何等の施設する所なく、之を土人舊來の教育方法に放任して復顧みざるものゝ如し、卿の名著「近世埃及」を繙き其教育篇を見るに曰く、埃及人の物質的幸福を圖ると同時に精神的向上も努めざるべからざる事ながら、奈何せん、埃及教育の進歩せざるものは第一、時が許さぬなり、精神的向上の如き事は永遠の時を要し期年にして望むべくもあらず、第二、金が乏しきなり、教育よりも急務なる諸般の事業に經費を要する事多く、爲めに教育に手が延びざりしなりと、其他縷々説く所ありと雖予は之に對して反問せんと欲す、二十五年の期間は果して教育上に何等の施設を爲すの遑なしと云ひ得る乎、壹億貳千萬圓の歳入は果して其幾分を教育費に割くに足らずと爲す乎と、故に予は疑へり、卿の説く處は是れ惟埃及人に對する辯疏慰藉に過ぎずして其立意の在る所は此に在らずして彼に在るものにあらざるなき乎を。昨年卿は「古代及近世帝國主義」を著はせり、其中に言へるあり、征服者が被征服人民を同化せんが爲に本國語の普及を務むる事なるが予が經驗する所に依れば本國語の普及は決して同化の目的を達し得ざるのみならず、却りて土人は教育に依りて其智識を高むるに從て其種族の獨立自治を自覺して、征服者に對して反抗を圖るに至るものなり、其例は印度に於て見る所

の如しと、知るべし、卿が土人教育に對して果して如何の意見を懷抱したるかを、而して是れ唯クロムマー卿の意見のみに非ず、凡て健全なる英國人の思想は皆卿の意見と一致する所ならん、勿論中には學者としてマコーレーの如き、政治家としてダルハウジー侯の如き、土人教育に熱心なる者もなきにしもあらざるも、英國の印度統治を通じて其沿革を考ふるときは、土人教育に關して時に立派なる宣言標榜あるにも拘はらず、其の進歩の蹟の遲々として振はざるものは、以て英國人が土人教育に關して果して如何なる思想を有する乎を想像するに於て、蓋し思半に過ぐるものあらんとす。

英國人は印度に於て已むを得ざる必要よりして土人教育を施設したり、已むを得ざる必要とは印度を統治するに於て土人間に有力なる輔助者を見出す事是なり。是れ印度教育の初等教育に初まらずして中等教育に初まり、次で大學教育の發達を致したる所以なりとす。其の初等教育に至りては英國が印度に政治的勢力を樹立して以來百五十年以上を經過せる今日に於ても、尙每五ヶ村落の四ヶ村落は小學校を缺き、男學齡兒童四人の中三人は就學せず、女學齡兒童每四十人に付き僅かに一人が就學する割合なるを見る。

千九百二年に於て印度に於ける英國人文武官吏の總數は千二百人なり、會社時代に於ては之よりも遙かに少數なりし事を推測せざるを得ず、夫れ斯の知き少數の本國人を以てして幾多の人種、宗教、言語、風習を包含せる百七十萬方哩三億人の大陸を統治せんと欲す、印度政府が土人を養成して下級官吏と爲し、之を其施政上の有力なる輔助員と爲さんとしたるは固より已むを得ざる必要に出づ、又土人政策上よりして土人の舊慣故俗を尊重し、利益の好餌を與へて其自負心を滿足せしめ以て英國統治を謳歌せしむる必要もありしならん、是等の必要よりして土人教育は初まれり、卽ち下級吏員又は技術員を養成せんが爲に中等教育及大學教育が創始せられたり、然れども英國人の土人を採用するや英國統治の鞏固を保持するに細心の注意を以てし、凡て行政の主腦は上は政府の幹部より下は一縣一郡の長官に至るまで悉く英國人を以て其地位に充て、決して之を土人に與へず、唯政治の機務に關係せざる專門的技術的地位のみを土人に與へり、卽ち司法、土木、通信及教育部內に於ける地位の如し、是を印度統治の傳來政策なりとす。

印度の土人教育は如上の如き實際の必要よりして發達したるものなりと雖、元來土人教育の如きは英國人の好む所にあらざるが故に、政府當局者は之に對して頗ぶる冷淡不熱心にして、高等政策の一として之に多大の注意を拂ふ事を爲さず、其施設經營に付ては所謂教育者流に一任して復顧みざりしなり。而して所謂教育者流なるものは何れの時、處にても同樣の事ながら、高等政策の見地よりして教育施設を案出するが如き識見を有する筈なく、印度の事情を斟酌せずして只管英國の教育制度を模倣移植したり、英語を以て教授の用語と爲し、英國の政體を教へ、歷史を教へ、權利自由の英國的思想を鼓吹せり、此英國的思想に涵養せられたる土人青年が其智識の發達に從ひ印度の政治上經濟上壓抑の現狀を目擊して英國統治に不平を懷き、果ては之を打破せんと試むるに至りたるは是れ自然の論理的結果なりと謂はざるを得ず。而して政府當局者は此形勢を看取するや、其傳來の籠蓋政策を以て從來英國人の占めたりし教育部內の地位は漸次之を土人に與へ以て其歡心を買ひ、其政治的不平を緩和せんと務めたり、教育部內の地位を土人に與ふるに從て印度教育の品質は益〻劣等と爲り、學校は人材の粗製濫造の工場と化し、

以て益〻政治上の危險分子を輩出するに至れり。所謂近時の政治的擾亂なるものは實に斯の如き原因結果が相錯綜作用して以て釀成したるものなりとす。之を要するに印度教育が近時の政治的擾亂を助成するに至りたるは印度政府が土人教育に熱心なりしが爲に非ずして却りて之に冷淡なりしが爲なり、換言すれば印度政府が土人教育を高等政策の一として重大視せずして其施設經營を所謂教育者流に一任し之を檢束し之を節制せざりしが爲なりと謂はざるを得ざるなり。カーゾン卿の總督と爲るや、夙に此缺陷を看取し銳意勵精教育改革を企てたり、卿が印度政府に文部省を新設することなくして(從來教育事務は內務省の一局たり)單に教育總監なる新官を設け、總督に直屬して教育上の顧問と爲し、以て自ら教育改革の衝に當りたるが如きは、正しく卿の改革が教育擴張に非ずして、之を檢束し之を節制し、以て宿弊を根本より矯正せんと欲するに在りたることを知るに足れり。然れども時機や既に遲し、印度教育の宿弊は一代の總督が數年の期間を以てして之を根本より矯正するには餘りに深且大なりしなり、今やカーゾン卿去りて復在らず、予は印度教育制度の前途に於て光明を看出さゞるを惜まずんばあらず。

殖民地教育の施設に從事せん者は深く印度教育の利弊に細心の注意を拂はずして可ならんや。

殖民地の土人教育問題

凡そ殖民地の土人教育問題程重大、困難且厄介なる問題は尠し。元來征服者の利權扶殖と被征服人民の精神向上とは根本に於て相兩立し得ざる事に屬す、若し單に文明普及の高尚の目的よりして土人の智德の發達を圖り、之をして征服者と相融和同化せしめんが爲に土人教育を施す者あらば、其人は必ずや欺かれたる事を承認するの時期が到來すべし。土人は教育を與ふるに從つて却りて獨立自治を自覺して征服者の統治を否認するに至らずんば已まざるべし。此點に關して予はクロムマー卿の結論に贊同するに躊躇せざるなり、固より融和同化の可能不可能といふ事は征服者と被征服者との人種、文明の差異の程度幷其歴史的關係等にも由る事なれども、土人教育に關しては西洋殖民國の過去の經驗は須らく細心留意する所莫るべからず、西班牙が比律賓土人に餘りに教育を施し自由政治を與へざりしならんには、ドクトル、リザルの如き革命主唱者も出でざりしなるべく、ア

ギナルト一派の革命軍も起らざりしなるべし、米國の指導に依りて西洋文明を採擇せる日本は今や其師友の壘を摩するに至れり、近世西洋殖民國の過去の經驗を無視して殖民政策上に一新機軸を出せるものを比律賓に於ける米國と爲す、卽ち米國は比律賓に蒞むに本國の文物制度を移殖し、此熱帶土人を化して米國流の自主自由の民たらしめん事を標榜し、之が爲に教育を以て其政策の要綱と爲し、總經費の六分の一を教育に投じて以て其殖民政治を創始したり、然れども予の親しく視察し研究したる所に依れば、實地に就き殖民地經營の經驗を積むに從つて有識者は此政策の誤れることを悟りたるものゝ如く、其教育制度は漸次實業教育に傾き、只管土人を健全勤勉の經濟分子と爲さんことを努めつゝあり、昨年米本國と比律賓との間に或る制限の下に自由貿易政策を採用したる結果として、比律賓の歳入に數百萬圓の減收を來したりしが、比律賓政府は此減收を教育費に負擔せしめ、之に多大の削減を加へ、遂に文部長官及學務局長の連袂辭職を見たる事實の如きは以て米國人の土人教育に對する思想の變遷を推知するに難からざるなり、獨り此大勢に反して薗領印度が近年に至りて自由政策を執り、土人教育に盡力しつゝ

あるは稍〻注目すべき事に屬す、元來壓制政治を以て有名にして土人教育の如きは更に棄てゝ顧みざりし蘭領印度が何故に斯く其の態度を一變したりしや、是れ怪む事を止めよ、老弱なる荷蘭本國の力は最早蘭領印度を把持するに足らず、漸やく獨逸の勢力に藉りて其統治を保持すと雖、内には五十萬の支那人の潛勢力の恐るべきものあり、本國に於ては自由思想の一派が切りに殖民地の壓制政治を非難するあり、而して外部に於ては由來壓制政治を以て有名にして殆んど世界の通義に仲間外れたるの非難を受くる苦痛あり、是れ蘭領印度政府の政策が一變したる所以にはあらざる乎、然れども予の親しく視察せる所に依れば、然かく其標榜は立派なるにも拘はらず實際に於て土人教育の如きは頗ぶる振はず、當局者は之に對して冷淡にして更に注意を拂はざるものゝ如し、要するに其の自由政策を執り土人教育に盡力すと標榜するものは是れ惟外面を扮飾する僞善政策なることを看取するに難からざるなり。

之を要するに過去の經驗に徵して考ふる時は、粉殖民地に於ける土人教育の結果は本國人との融和同化を致すに足らずして、反りて本國人の利益と相背馳し遂には本國人の統治を危殆ならしむるものなることは復疑ふべからざる眞理なりと謂はざるを得ず。

結論

然らば則ち殖民地に於て土人教育は之を施設せずして可なりや、曰く否、孰れの殖民國にもせよ、其本國人の利益と相背馳するよりして土人教育を施設せざる旨を大膽に宣言したるもの莫し、遲かれ早かれ、多かれ少かれ、孰れの殖民國も土人教育を施設經營するを見る、是れ他なし、元來殖民政策の要訣は相衝突せる利益、相矛盾せる理想の調和に在れば、克く此調和に於て成功せる者は則ち殖民政策に於て成功したるものなりとす、英國の殖民史を繙讀せよ、孰れか調和の痕跡にあらざる、苟も善く此調和を行ふ能はずんば、國家としては殖民地經營に失敗すべく個人としては殖民地行政に失敗すべし、抑〻國家が殖民地の開拓經營に努力する所以のものは云ふまでもなく利己心卽ち本能滿足卽ち自國の利權扶植に在りと雖世界殖民の競爭場裡に立ちて孰れの文明國か果して單に本能滿足のみを聲明して其殖民地經營を爲すものある乎、自國の利權扶植と共に被征服人民に文明の恩澤

を與へ、世界文明の目的の爲めに殖民地經營に任ずるものなることを標榜とせざるは莫し、之を現今文明諸國の通義と爲す、若し毫も被征服人民に文明の恩澤を與へずして、單に本能滿足のみを以て露骨に標榜とせん乎、他の文明諸國は之に藉口して文明の敵人道の敵と爲して之を疾視し之を排斥するに至らんとす、殖民地に於て土人教育を施設せざるべからざる理由も亦實に此に存せり、文明諸國の通義として土人教育は施設せざるべからず、而かも其結果は終に征服者の統治を破壞するに至るべき虞あり、然らば則ち如何に之を處理すべき乎、土人教育問題が困難にして且厄介なる問題なりと謂ふは實に此點に存せずんばあらざるなり。

殖民地に土人教育を施設せざるべからざる理由は實に前陳の如くなるが故に、政府當局者たる者は其施設に關して常に細心の注意を拂ひ、之を專門家の爲すが儘にのみ放任せずして、高等政策の見地よりして之を檢束節制し、出來得べくんば本國人の利益と土人の覺醒自立と相背馳し相兩立し得ざる此二個の要素を緩和し、兩者衝突の經過を圓滿に解決せん事を務めざるべからず、殖民地に於ては當局者は土木、交通、產業等の積極的事業に熱心努力すると同時に教育事業の如き消極的事業にも亦最大の注意を拂はんこと必要なり、土人教育を等閑に付し之を檢束し之を節制せずして所謂教育者流の爲すが儘に放任したる結果が復回復すべからざる政治的擾亂を惹起したるは印度に於て見たる實例の如し、殖民地經營に任ぜん者は印度の經驗よりして多大の教訓を學ばんことを要す、予が印度教育問題を此に紹介するに方り殖民地土人教育の一般問題に關して如上の卑見を吐露するも亦衷心已むを得ざるものありて存ず、此の印度教育問題を繙讀せん者深く此に猛省三思せんことを要求せざるを得ざるなり。

臺灣殖民政策（附錄）終

明治四十五年七月三日印刷
明治四十五年七月六日發行
大正元年八月廿五日再版

著作者　持地六三郎
發行者　東京市神田區裏神保町九番地　合資會社　冨山房
代表者　同所　合資會社冨山房社長　坂本嘉治馬
印刷者　東京市芝區愛宕町二丁目十四番地　金崎金平
印刷所　東京市芝區愛宕町三丁目二番地　東洋印刷株式會社

（臺灣殖民政策奥附）
定價金壹圓八拾錢

發行所　（明治廿九年六月設立）　合資會社　冨山房
電話本局一〇三六・四一三〇・四四四二番
振替貯金口座東京五〇一番

著作權所有

法學士　持地六三郎著

臺灣殖民政策　全

東京　合資會社　冨山房發兌